

令和元年度 特別研修「意識啓発講座（事例発表会）」実施要領

1 研修の目的

説明責任を全うすることが求められる中、公共事業の実施等においては事業説明をはじめ、住民の方々との対話は重要な役割を占めている。このことから、この講座を事業説明等のトレーニングの場と位置付け、発表者は発注した公共工事等を題材に事例発表等を行い、また、聴講者は聴講することにより建設技術の普及と技術力向上への意識啓発を図る。

2 開催日時

令和元年11月22日（金）10:30～16:30

3 会場

公益財団法人広島市文化財団 まちづくり市民交流プラザ 研修室 AB

4 次第

10:00～	受付開始
10:30～10:40	開会：（一社）広島県土木協会 技術部長
10:40～11:20	基調講演：「若者に託す！」 西日本旅客鉄道株式会社 広島管理駅長
11:20～12:00	報告事項：「公共事業に関する最近の話題」 広島県 土木建築局 技術企画課
12:00～13:00	（昼休憩）
13:00～14:20	基調講演：「(続)宮原的まちづくりスピリッツと新たな挑戦」 宮原好きネット支配人・榎 梵まちづくり研究所
14:20～14:30	（休憩）
14:30～14:50	取組紹介：「i-Construction 魅力ある建設現場を目指す取組について」 国土交通省 中国地方整備局 企画部 工事品質調整官
14:50～15:10	事例発表：「建設発生土の工事間利用」 三次市役所 建設部 土木課
15:10～15:30	事例発表：「府中町公共下水道に係る「都市計画」の変更について」 府中町役場 建設部 下水道課
15:30～15:40	（休憩）
15:40～16:00	事例発表：「派遣から5年を経て」 大崎上島町役場 建設課
16:00～16:20	事業報告：「土木協会の取り組みについて」 （一社）広島県土木協会 技術部
16:20～16:30	閉会：（一社）広島県土木協会 技術部長

※ 発表 15 分，質疑応答 5 分

主催：（一社）広島県土木協会

令和元年度 特別研修「意識啓発講座（事例発表会）」～研修状況～

日時：令和元年11月22日（金）10:30～16:30

会場：公益財団法人広島市文化財団 まちづくり市民交流プラザ 研修室AB

10:30～10:40 開会挨拶：（一社）広島県土木協会 技術部長

10:40～11:20 基調講演：「若者に託す！」

西日本旅客鉄道株式会社 広島管理駅長



11:20～12:00 報告事項：「公共事業に関する最近の話題」

広島県 土木建築局 技術企画課

12:00～13:00（昼休憩）

13:00～14:20 基調講演：「(続)宮原的まちづくりスピリッツと新たな挑戦」

宮原好きネット支配人・(株)梵まちづくり研究所 取締役



14:20～14:30（休憩）

14:30～14:50 取組紹介：「i-Construction 魅力ある建設現場を目指す取組について」

国土交通省 中国地方整備局 企画部 工事品質調整官



14:50 ~ 15:10 事例発表：「建設発生土の工事間利用」

三次市役所 建設部 土木課



15:10 ~ 15:30 事例発表：「府中町公共下水道に係る「都市計画」の変更について」

府中町役場 建設部 下水道課



15:30 ~ 15:40 (休憩)

15:40 ~ 16:00 事例発表：「派遣から5年を経て」

大崎上島町役場 建設課



16:00 ~ 16:20 事業報告：「土木協会の取り組みについて」

(一社) 広島県土木協会 技術部

16:20 ~ 16:30 閉会：(一社) 広島県土木協会 技術部長



感想など、自由な意見を記入して下さい。

《取組紹介》：「i-Construction 魅力ある建設現場を目指す取組について」

- 情報の入手にはなった。必要性の部分では、まだまだ分からない点が多い。
- ICT施工に対応できる行政であるように改革していく必要があると思いました。個々の能力に加え、協会会社のレベルアップをしていくよう環境を整える必要がある。
- 建設現場は3kというキーワードが表すように、若者にとって、非常に人気のない職となっているが、ICTを活用した測量から工事により、そのイメージを払拭しようとしていることを深く知った。
- 建設業の状況を知ることが出来た。
- 市町で施工する小規模工事でICTを活用できる可能性を感じた。業者の技術者不足という課題を克服する打開策として、浸透していけばよいと感じた。
- 建設業の労働時間を減らすためにも、発注者側がICT土工の利点を知り、周知していく必要があるため、知識を付け、対応できるようにしていきたいと思った。
- もっと詳しい説明があれば、時間超過してでも…短いような。
- 今後の参考となった。
- 話す内容が多いためなのか資料が多く、書いてあることも詰めてあるので、どこに注目して良いか分からなかった。
- 建設現場の生産性向上について、これから、正に取り組んで行く課題であると感じた。普段の仕事においても、このようなことを考えながら取り組みたい。
- 労働者の高齢化により、数年後には生産性が下がるため、ICTを活用し、生産性向上をしていく必要がある。しかし、工事規模がある程度大きくないと活用が出来ないと思う。
- 小規模な現場でも活用できることを初めて知った。
- 災害復旧工事が多数発注されている中で効率的な施工もですが、ウェアブルカメラやWeb会議等が広まって、立会等に必要な移動時間等の削減が進んでいくことを期待します。
- 労働力の確保に向け、積極的に学びたい。
- メリットを紹介する事も大切だと思った。初期投資が大変だと思う。体力のない業者に導入するのは難しいかなと思った。
- 建設現場のイメージアップとICT化が進んでほしいと思った。
- 疲弊した地元業者がどこまで対応できるか疑問ですが、高齢化が深刻な状況で、少しでも将来への希望が持てるように、周知が必要だと感じました。
- 土木技術者不足の深刻さ、ICT工事の事について理解できた。
- 新技術について、もう少し時間を長く取ってくれば良かったです。
- 小規模工事でのICTによる生産性向上と働き方の変化に期待するところです。
- 大きな現場より小さな現場でのICTの活用を期待しています。直営で色々できるようになると嬉しいです。全体の活用ではなく、1件の工事に縛って比較したものを細かく教えてもらった方が現実的かなと思いました。
- 小規模業者が本当に出来ると思っているのか。
- 建設業界の人手不足が課題である今、生産性の向上のためにICTは必要であると思った。
- 企業がICT化を進めたいが、発注者が足踏みしている様子も伺える。特に発注者の歩み寄りが必要と感じる。
- 市町の発注するレベルの工事で適用できるのか疑問に思った。
- ICT活用工事の実施状況や活用効果、効率化が図れ、安全性の効果も上がると知り、もっとICTを身近にして、どんどん取り入れられたらと思いました。
- i-Construction の意味が分かった。
- もっと具体的に聞きたかった。広島県の取り組み状況も併せて聞きたかった。
- 小規模工事に対応できるものがあれば参考にしたい。